



地 理 教 育
鐵 道 唱 歌
第 五 集





5

大阪師範學校教諭

多

梅

稚作曲

奈良師範學校教諭

目賀田萬世吉作曲

地理
教育
鐵道
唱歌
第五集

大和田建樹作歌

鐵道唱歌 (五集) 多梅稚作曲

Musical score for 'Railway Songs' (Volume 5) by Tamekuni Tachibana. The score consists of four staves of music in G major, 2/4 time, with lyrics in Japanese and numbered notation below each staff.

Staff 1: 1. 1 1. 2 | 3. 3 3. 2 | 1. 1 1. 6 | 5. 0 |
 キーシヤチ タヨリニ オモヒダ ツラ
 ザウヘイイ キョークノ ササナフ ザテクン モル
 シーツヤウ ナハテ ニ アフ ギ ミ

Staff 2: 6. 6 5. 6 | 1. 1 3. 3 | 2. 2 1. 2 | 3. 0 |
 イークセヤ ヤマ ト ク ニ メ グ
 サクセラ ノ ミヤ ノ ン ヌ フ ス ド
 スーギ テン コ ウ ノ ー

Staff 3: 5. 5 5. 5 | 5. 5 6. 5 | 3. 1 2. 3 | 2. 0 |
 アミシマ イーデ クワ サ イ
 ナゴドリチ アートニ クンカヘ レ
 マドヨレモ チーカヨ キキ スイ

Staff 4: 1. 2 3. 3 | 2. 2 5. 5 | 3. 3 2. 2 | 1. 0 |
 センロチ タビノ ー
 シーロトル タンシ ムモ
 テニトル ゴドク ム
 ハタカセ ゴイマモ カソカ ニ ャセ
 テハ カセ

Vertical list of song titles and volumes, arranged from right to left:

- 第一集 東海道 (Volume 1: Tokaido)
- 第二集 山陽九州 (Volume 2: San'yō Kyūshū)
- 第三集 東北地方 (Volume 3: Tohoku)
- 第四集 北陸地方 (Volume 4: Hokuriku)
- 第五集 畿内及隣邦 (Volume 5: Kinai and Neighboring Countries)
- 世界唱歌 全二冊 新刊 (World Songs, 2 volumes, New Edition)
- 航海唱歌 全二冊 新刊 (Sea Songs, 2 volumes, New Edition)

鐵道唱歌 (五集) 多梅稚作曲



1. 1 6. 5 | 1. 1 1 1 | 2. 2 1 2 | 3. 0 |
 キー シ ヤ ナ タ ヨ リ ニ オ モ ヒ タ ツ
 ザ ウ ヘ ク イ キ ヨ ク ノ ー ア サ ザ ク ラ
 サ ー ク ヤ ナ ナ タ 子 ノ ハ ナ ナ テ ィ ィ ミ
 シ ー ジ ヤ ナ ナ ハ テ ニ ア フ ギ ミ ル



3. 4 3 2 | 1. 2 3 5 | 2. 2 2 3 | 1. 0 |
 イ ー セ ヤ ヤ マ ト ノ ク ニ メ ケ リ
 サ ク ラ ノ ミ マ ヤ ノ ユ フ ス ノ ス ド ミ ウ
 ス ー ギ テ ト ク ア ノ ス ミ ヤ ド コ ロ
 セ ウ ナ テ コ ウ ノ ミ ヤ ド コ



5. 5 5 5 | 3. 1 2 2 | 5. 5 3 1 | 2. 0 |
 ア ミ ツ マ イ デ テ ー ク ワ ソ サ イ ノ
 ナ ゴ リ マ ア ア ト ニ ー ク カ ヘ レ バ
 マ ド ヨ リ チ ア チ カ キ ー ミ コ マ ヤ マ
 ナ ガ レ モ キ ヨ キ ー キ ク ス イ ノ



5. 5 6 5 | 1. 2 3 3 | 2. 2 2 3 | 1. 0 |
 セ ン ロ チ タ ビ ノ ー ハ シ メ ニ テ
 シ ー ロ ノ タ シ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ
 テ ニ ト ル セ ゴ ト ク ー ソ ス ミ ャ ャ
 ハ タ カ セ ゴ イ マ モ ー カ チ ラ セ テ

關西參宮南海各線

一 瀛車をたふりに思ひ立つ

伊勢や大和の國めぐり

網島いで、關西の

線路を旅の始にて

二 造幣局の朝ざくら

櫻の宮の夕すゝみ

なごりを跡に見かへれば

城の天守も霞みゆく

網島

關西線

三 咲くや菜種の放出も

過ぎて徳庵往の道

窓より近き生駒山

手に取る如く聳えたり

四 四條驤に仰ぎみる

小楠公の宮どころ

ながれも清き菊水の

旗風いまでも香らせて

放出 徳庵 住道

四條驤

五 心の花も櫻井の

父の遺訓を身にしめて

引きは返さぬ武士の

戦死のあさは此土地よ

六 飯盛山をあそにして

星田すぐれば津田の里

倉治の桃の色ふかく

源氏の瀧の音たかし

星田 津田

七 柞はこその森もりと歌うたによむ

祝園いはらすぎて新木津しんきつの

左ひだりは京都きやうと右みぎは奈良なら

奈良ならは歸かへりに残のこさまし

八 京都きやうとの道みちに名なを得えたる

驛えきは玉水たまみづ宇治うぢ木幡きわた

佐々木ささき四郎しろうの先陣せんじんに

知しられし川かはもわたるなり

長尾

田邊

祝園

新木津

奈良

道線

京都

玉水

宇治

木幡

九 共仁きうにの都みやこの跡あとと聞きく

加茂かまを出いづれば左ひだりには

木津川きつがはしろく流ながれたり

晒ひせる布ぬいの如ごとくにて

〇 川かはのあなたにながめゆく

笠置かさぎの山やまは元弘げんこうの

宮居みやゐの跡あとと聞きくからに

ふるは涙なみだか村雨むらあめか

加茂

加茂

笠置

二 水をはなれて六丈の

高さをわたる鐵の橋

すぐればこゝぞ大河原

河原の岩のけしきよさ

三 上野は伊賀の都會の地

春はこゝより汽車おりて

影もおぼろの月が瀬に

梅みる人の數おほし

大河原

島原

上野

三 月は姥捨須磨明石

花はみよしの嵐山

天下一つの梅林と

きこえし名所は此山ぞ

四 伊賀焼いづる佐那具の地

芭蕉うまれし柘植の驛

線路左にわかるれば

迷はぬ道は草津まで

佐那具

柘植

草津

一五 鈴鹿の山のトン子ルを

八

加太

くぐれば早も伊勢の國

筆捨山の風景を

見よや關より汽車おりて

關

一六 愛知逢坂鈴鹿とて

三つの關所と呼ばれたる

むかしの跡は知らぬとも

關の地藏は寺ふるし

一七 巖にあそぶ龜山の

龜山

左は尾張名古屋線

名古屋

道にすぎゆく四日市

四日市

舟の煙や絶えざらん

一八 萬古の焼と蛤に

其名知られし桑名町

日も長島の西東

揖斐と木曾との川長し

九

一九 龜山城をあとにして

一身田も夢のまに

走ればきたる津の町は

参宮鐵道起点の地

二〇 町の社に祭らるゝ

神は結城の宗廣こ

きこえし南朝忠義の士

まもるか今も君が代を

支那線

下庄

一身田

参宮線

津

三 阿漕が浦に引く網の

名も高茶屋の雲出川

わたりながらも眺めやる

桃のさかりやいかならん

三 木綿産地の松坂は

本居翁の墳墓の地

國學界の泰斗こて

あふがぬ人はよもあらし

阿漕
高茶屋

六軒
松坂

田丸たまるの驛えきに程ほどちかき

齋宮さいみや村むらは齋王さいおうの

むかし下りて此國このくにに

住ませ給ひし御所ごしょの跡あと

轟とろろきわたる宮川みやがはの

土手どての櫻さくらの花はなざかり

雲くもか霞かすみか白雪しろゆきか

にほはぬ色の波なみもなし

徳和
相可
田丸

富川

二五 伊勢いせの外宮げぐうのおはします

山田やまだに瀧車たきぐるまは着つきにけり

参詣さんげいいそげ吾友わがともよ

五十鈴いすずの川かはに御被みまはして

二六 五十鈴いすずの川かはの宇治橋うぢはしを

わたればこゝぞ天照あまてらすす

皇大神すめみかみの宮みやどころ

千木ちぎたかしりて立ち給たまふ

筋向橋

山田

二七 神路の山の木々あをく

御裳濯川の水きよし

御威は盡きじ千代かけて

いづる朝日ともろこもに

二八 伊勢と志摩にまたがりて

雲井に立てる朝熊山

のぼれば富士の高嶺まで

語り答ふるばかりにて

二九 下りは道を踏みかへて

見るや二見の二つ岩

畫に見しまゝの姿にて

立つもなつかし海原に

三〇 今ぞめでたく参宮を

すまして跡に立ちかへる

瀧車は加茂より乗りかへて

奈良の都をめぐりみん

支關 加茂 大佛 奈良
線西

奈良めぐり



1 { ナーラハチチトセノソノカ一シ
ヒガシチニミターレバルミカサヤマ
フモトナモタカキイアツノ



2 { シチダイルサカエシノテイトリノチ
イゴジツルノアサフエノカゲイモリナ
ヒカフリチアフフグアツイ

(三) 麓ふもとに立たてる興福寺こうふくじ
五重ごじゆうの塔たのかげうつす
池いけは猿澤さるさわきぬかけの
柳やなぎは風かぜになびくなり
(四) 世よに名なも高たかき大佛たいぶつの
光ひかりを仰あやぐ東大寺とうだいじ
傘からかささしてぬけらるゝ
佛ほとけの鼻はなの大おほきささよ

目賀田万世吉作曲



3 { シチダイルサカエシノテイトリノチ
カイカスラダガケカイノハサガモササ
ラールンリサシノハテカコキヌ



4 { ノオヤホ一キナトコフギケルスハノ
ヒシカハビカセナゾモニノミオナホ

奈良ならめぐり
(一) 奈良ならは千ち年の其そのむかし
七代しちだいさかえし帝都ていとの地ち
七しち大だい伽藍がらんの鐘かねの音ねに
残のこる響ひびぞ身みにはしむ
(二) 東ひがしを見みれば三笠山みかさやま
いづる朝日あさひの曇くもりなく
春日かすがの森もりの木この間まには
おきふす鹿しかも面おも白しろや

奈良めぐり



5 { ニケキナ
一ン一
シチダゴ
ハクニリ
ホフメノ
ツ一アコ
ケルレシ
ノキバテ
サホサロ
イフホカ
ダリヤレ
イウマニ
一ニ一
シシニク



6 { ミモミナ
ヤ一
コミユラ
ノナルノ
ユソゴミ
一メリヤ
メナヨゲ
ハスワロ
ヤタロナ
アツシニ
レタヤナ
タヤムニ
ルマイゾ
テゾ

(七) 北きたにめぐれば佐保山さほやまに

見ゆる御陵みよりうらは聖武帝しやうむてい

をがむ袂たもとの露つゆけきは

草くさも昔むかしやしのぶらん

(八) なごり残のこして別れゆく

奈良ならのみやげは何々なにんぞ

奈良人形ならにんぎやうに春日塗かすがぬり

張子はりこの鹿しかに奈良扇ならあふぎ

目賀田万世吉作曲



7 { タサチナ
一ン一
ビボガニ
ノウムン
マガタギ
クテモヤ
ララトウ
ニニノニ
アカツカ
キタユス
シミケガ
ノチサヌ
ノチハリ



8 { サノケハ
一リ一
トタサコ
ノルモノ
キキムン
ヌシカー
タヤシカ
モハヤニ
ヒハシナ
ピンノラ
クシブア
ナカラフ
リンギ

(五) 西にしは法華寺ほつげじ西大寺さいだいじ

都みやこの夢ゆめはやぶれたる

旅たびのまくらに秋篠あきしのの

里さとの砧きぬたもひぶくなり

(六) 建築けんちくふるき法隆寺ほりうじ

紅葉もみぢそめなす龍田山たつたやま

散歩さんぽがてらに片道かたみちを

乗りたる瀛車しやは半時間はんじかん

三 はや遠ざかる奈良の町

帯解寺も打ちすぎて

渡るながれは布留の川

石の上こはここなれや

三 都のあこを教へよこ

いへど答へぬ賤の男が

歸るそなたの丹波市

布留の社に道ちかし

奈良線

帯解

櫛ノ本

丹波市

柳本

三三 三輪の杉むら過ぎがてに

なくか昔のほこぎす

今は青葉の櫻井に

着きたる瀧車の速かさ

三四 こゝよりおりて程ちかき

長谷の観音ふし拜み

雄略帝が朝倉の

宮の遺跡もたづねみん

三輪

三五

初瀬列樹の宮のあと

問はんこそすれば日は落ちて

初瀬の川の夕波に

ふくや初瀬の山おろし

三六

さぐる名所の楽しさに

思はずのぼる多武の峰

峰にかがやく鎌足の

社のあたり花おほし

櫻井

三七

櫻井いでてわが汽車は

畝傍耳無香山の

鼎に似たる三山を

前後に見つゝ今ぞゆく

三八

畝傍の麓櫃原に

始めて都したまひし

御威も高き大君が

御陵をかめ人々よ

畝傍
關西鐵道線

三九 高田たかたわかれて右みぎゆけば

河内おほちに走る線路せんろあり

路みちにすぎゆく柏原かしはらの

名高なたかき寺てらは道明寺みやうじ

四〇 右みぎの窓まどよりながめやる

葛城山かつらやまの南みなみには

楠氏なんしの城しろに名なを擧あげし

金剛山こんがうざんもつゞきたり

高田

王子
柏原

四一 新庄しんじやう御所ごせを打ちすぎて

掖上わかしゆけば神武帝かむてい

國くにを蜻蛉あきづと宣のたまひし

噺間はなまの丘かみぞ仰あやがる

四二 終しまれば起おこる鐵道てつどうの

南和なんわと紀和きわの繋つなぎ口くち

五條ごじょうすぐれば隅田すみだより

紀伊きいの境さかいに入りいりにけり

南和線

新庄

御所

掖上

葛

北宇智

五條

紀和線

隅田

四三 瞬またくひまに橋本はしもとと

叫こゑぶ驛夫しんぷに道みちこへば

紀きの川がはわたり九度山くどやまを

すぎて三里さんりぞ高野かうやまで

四四 弘法こうぼう大師だいしこの山やまを

ひらきしよりは千餘年せんよねん

蝸かきひびく骨堂こつだうの

あたりは夏なつも風かぜさむし

四五 木隠きこもりをぐらき不動坂ふどうざか

夕露ゆふつゆしげき女人堂にんなだう

みれば心こころもおのづから

塵ちりの浮世うきよを離はなれけり

四六 ふたゝび渡わたる紀きの川がはの

水上みなかみとほく雲くもならで

立たてるは花はなの吉野山よしのやま

見みて來こんものを春はるならば

四七 あはれ暫は南朝の

假の皇居となりたりし

吉水院の月のかげ

曇るか今も夜なくは

四八 夕べ悲しき梟の

聲より猶も身にしむは

如意輪堂の寶藏に

のこる鏃の文字の跡

四九 親のめぐみの粉河より

又乗る漚車は紀和の線

船戸田井の瀬うちすぎて

和歌山みえし嬉しさよ

五〇 紀の川口の和歌山は

南海一の都會にて

宮は日前國懸

旅の心の名草山

紀和線

粉河

打田

船戸

布施屋

田井ノ瀬

和歌山

五一

紀三井寺より見わたせば

和歌の浦波しづかにて

こぎゆく海士の釣船は

うかぶ木の葉か笹の葉か

五二

蘆邊のあしの夕風に

散り來る露の玉津島

苦が島には燈臺の

光ぞ夜は美しき

五三

密柑のいづる有田村

鐘の名ひやく道成寺

紀州名所は多けれど

道の遠きを如何にせん

五四

みかへる跡に立ちのこる

城の天守の白壁は

茂れる松の木の間より

いつまで吾を送るらん

五五 北口きたぐちいでて走りゆく

南海線なんかいせんの道みちすから

窓まどに親したしむ朝風あさかぜの

深日ふけひはこゝよ夢ゆめのまに

五六 尾崎おしざきに立たてる本願寺ほんがんじ

樽井たるいにちかき躑躅山つづじやま

やまず來きて見みん春はるふけて

花はなうつくしく咲さく頃はころは

南海線
和歌山
北口

深日
箱作
尾崎

樽井

五七 佐野さのの松原貫之まつはらつらぬきが

歌うたに知しられし蟻あり通とほし

蟻ありのおもひにあらねども

こゝく願ねがひは汽車しやの恩おん

五八 貝塚かいづかいでしかひありて

はや岸和田きしわだの城しろの跡あと

こゝは大津おほつかいざゝらば

おりて信太しのたの楠くすも見みん

佐野

貝塚

岸和田

大津

五九

かけじや袖こよみおきし

その名高師が濱の波

よする濱寺あそこに見て

ゆけば湊は早前に

六〇

堺の濱の風景に

旅の心もうばはれて

汽車のいづるも忘れたり

霞むはそれか淡路島

濱寺

湊

堺

六一

段通及物の名産に

心のこして又も來ん

沖に鯛つる花の春

磯に舟こぐ月の秋

六二

蘇鐵に名ある古寺の

話きつゝ大和川

渡ればあれに住吉の

松も燈籠も近づきぬ

大和川

住吉

六三 遠里小野の夕あらし

ふくや安倍野の松かげに

顯家父子の社あり

忠死のあこは何方ぞ

六四 治まる御代の天下茶屋

さわがぬ波の難波驛

いさみて出づる旅人の

心はあこに残れども

天下茶屋

難波

明治三十三年十月三十日印刷
明治三十三年十月三日發行

定價六錢

五集

轉載譯譜謄寫不許



作曲者 多梅稚
作曲者 目賀田萬世吉

著作者 大和田建樹

發行者 三木佐助

印刷者 野村宗十郎

東京賣捌

東京市牛込區東榎木町二十番地
大阪市東區北久寶寺町四丁目百六番邸
東京市京橋區築地三丁目十五番地
日本橋通三丁目 林平次郎
銀座三丁目 十字屋書店
新橋竹川町 共益商店

三木書店音樂書略目

教育音樂講習會編纂文部省檢定濟 編新 教育唱歌集 東京音樂學校教授小山作之助編纂	編新 國民唱歌集 大阪府師範學校教諭多梅稚編纂	編新 日本唱歌 理學博士田中正平校閱田村虎藏編纂	近世 樂典教科書 大阪府女子師範學校長大村芳樹著	適用 遊戲之枝折 東京音樂學校教授山田源一郎著	圖解 ヴロイオリン指南 大阪府師範學校教諭多梅稚著	ヴロイオリン初步
全二冊	全四冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊
定價各十二錢	定價各金八錢	定價金十二錢	定價金四十錢	定價金六十錢	定價金五十錢	定價金四十錢